

株式会社 アルバック

2026年6月期上期 WEB 決算説明会（2026年2月10日開催）**およびアナリストミーティングの主な質疑応答****【上期決算概要・通期業績予想】****1. 上期受注高・売上高・各利益項目の実績と、通期計画の上方修正について教えてください。**

A: 上期受注高は、中国ロジック向けメタルハードマスク（MHM）工程や北米における外資メーカーによる投資の寄与、さらにディスプレイ関連投資の貢献や設備追加案件等が想定を上回り、上期全体で計画比+171億円と大幅増となりました。また、下期にかけても高水準の受注が見込まれることから、通期の受注計画を300億円上方修正し、2,800億円としています。

上期売上高も進行基準の進捗により上振れましたが、利益面では、高収益のパワーデバイス案件が剥落したことに加え、相対的に利益率の低いディスプレイ案件が集中したため、粗利率は計画を下回りました。3Qは2Q比で売上高がやや低下する見込みですが、下期にかけて高収益なロジック関連の売上寄与等により、利益率は段階的に改善していく計画です。

2. 事業環境は3か月前と比較してどうか？

A: 想定を上回る受注環境となっており、通期計画を300億円上方修正（2,500→2,800億円）しました。中国パワーデバイス投資の停滞を、AI向けのロジックや先端パッケージング、および計画外の大型ディスプレイ案件が補うなど、3か月前と比較すると全体として力強い推移に転じています。

3. 下期の営業利益率の見通しは、上期実績や過去の水準と比較して高い目標に見えますが、達成の蓋然性をどう見ていますか？

A: 下期の営業利益率は、半導体案件の増加等によって段階的に上昇を見込んでいる一方で、受注が好調なディスプレイ案件の増加による利益率の押し下げ要因などもあり、年間利益率の目標達成はややハードルが高い状況です。売上高のボリュームを増やし利益額を確保することで、目標達成に向けて取り組んでいきます。

【投資動向】**4. 半導体（ロジック・メモリ）の投資動向と今後の見通しについて教えてください。****A: ロジック**

2Qロジック受注は約100億円と好調で、中国大手顧客や北米における外資メーカーによる投資や最先端プロセス案件が寄与しました。引き続き下期にかけても中国大手顧客からの受注を見込んでいるため、通期計画は期初見通しから大幅増となる約300億円程度を予測しています。

メモリ（DRAM・NAND）

2QDRAM受注は韓国顧客を中心に順調に推移し、下期には北米顧客からの受注を見込んでいるため、期初計画を上回る190億円程度の受注を予測しています。また、NANDにおいても、次世代向けの投資が継続しています。メモリ全体では期初計画通りの240億円半ばの受注水準を予測しております。

来期にかけても、ロジック・メモリともに新しいPOR（量産認定プロセス）の獲得によりビジネス拡大を図ります。

5. パッケージングの投資動向は？

A: GPU 需要増加に伴うパッケージング増産によりアッシング装置の受注が好調に推移し、通期計画を 180 億円台半ばへと引き上げました。下期は、台湾 OSAT や国内メーカー向けの PLP（パネルレベルパッケージ）投資（約 40~50 億円規模）の寄与を見込んでいます。

6. パワーデバイス・オプトデバイスの投資動向は？

A: パワーデバイス

中国市場での需要トーンダウンにより投資時期の後ろ倒しが発生しており、受注は当初想定を下回る推移となっています。この落ち込みは、好調なロジックやパッケージング、ディスプレイ案件を積み重ねることでカバーしていく方針です。このような事業環境の下、中国市場におけるイオン注入装置のシェア No.1 のポジションを活かし、市場回復に伴う成長を確実なものとするとともに、次世代パワーデバイスである窒化ガリウム（GaN）対応の技術展開など新素材分野での市場開拓を強化し、さらなるシェア拡大を目指していきます。

オプトデバイス

期初は中国市場における AR/VR 向け大口案件を想定していましたが、収益性を重視する観点から、当社にしか対応できないスパッタリング装置などの収益性の高い案件のみを限定的に受注することにしたため、期初受注計画の 160 億円半ばから 60 億円程度までに見直しました。

7. ディスプレイ・エネルギーの投資動向は？

A: 中国メーカーによる G8 サイズ OLED 向けの新規ライン投資や LCD の設備追加投資案件など、計画外の受注があり、期初計画から +230 億円の 630 億円を見込んでおります。収益性においては構造的に半導体電子関連と比較すると低いものの、過去の案件と比較して採算改善が進んでいます。

なお、ディスプレイ事業に関する方針に変更無く、半導体電子へのリソースをシフトしつつ、ディスプレイ関連の生産については中国へ移管・集中することで、生産効率の最適化と利益率のさらなる改善を図ってまいります。

8. レアアース磁石関連ビジネス（一般産業）の投資動向は？

A: 足もとで北米や東南アジアからの引き合いが急増しており、サプライチェーンの多角化による生産拡大が期待されます。一般産業は、これまで 200 億円前後の受注高水準で推移してきましたが、レアアース磁石等の強い需要を取り込むことで、今後 3~5 年のスパンでは 350~450 億円規模に定着すると期待しています。また、当該装置は既存技術をベースとした高収益な製品であり、利益面でも大きく貢献する見込みです。

【バリューアッププラン（事業改革・生産改革）】

9. 事業改革・生産改革の進捗状況について教えてください。

A: 早期達成に向けて、各施策を迅速に推進しております。

事業改革

マテリアル事業（ディスプレイ関連）については、当期中の完了に向けて順調に進行しております。「その他の事業」に含まれている事業も当期中の完了に向けて順調に進行しています。また、東南アジアにある一部の CS 拠点も 3 月閉鎖予定です。生産拠点の再構築については、生産活動の調整を実施中であり、また東北工場等については配置転換・希望退職制度・再就職支援を実施しております。

生産改革

生産拠点の効率向上とモジュラーデザインの導入による収益性の向上を図るため、設計・調達・製造・IT システムの 4 つの領域で改革を推進しております。

10 関税の影響は？

A: 基本的に関税については、買い手負担を適用しているため、関税による直接影響は限定的です。エンド需要減速による間接影響を引き続き注視していきます。また、現時点で顧客からの受注に目立った変化ありません。なお、半導体関連の政策が不透明な状況であることから、通期業績予想には関税影響は織り込んでおりません。

以上